事 業 報 告 書

自　2023年　4月　1日
至　2024年　3月 31日

公益財団法人前立腺研究財団

2023年度 事業報告書

1 役員等

2024年3月31日現在役員等

理　事　　7人（代表理事　1人　専務理事　1人　常務理事　1人）
監　事　　2人
評議員　　8人

2 会　議

1）理事会
2023年　5月 26日（第1回 通常理事会　リモート会議）
2024年　3月 13日（第2回 通常理事会　リモート会議）

2023年　9月 19日（第1回 臨時理事会　リモート会議）
2024年　1月 26日（第2回 臨時理事会　リモート会議）

2）評議員会
2023年　6月 13日（定時評議員会　リモート会議）

3）前立腺研究財団財務検討チーム会議
2023年　4月 14日（第1回チーム会議　リモート会議）
2023年　8月　1日（第2回チーム会議　リモート会議）

4）第38回前立腺シンポジウム プログラム委員会
2023年　9月 23日（リモート会議）

5）前立腺シンポジウム運営委員会
2024年　3月　8日（リモート会議）

6）2023年度「研究助成」選考委員会
2023年 12月 10日（東京コンファレンスセンター・品川）

【事業報告】

1. 前立腺シンポジウム学術集会（自主事業）

第38回前立腺シンポジウムは、第1日の12月9日（土）にオープニングセミナーおよび基礎部門として公募演題と指定演題の発表、ワークショップ、教育セミナー1 を実施した。

各講演後には、多くの質問があり、活発な意見交換が行われた。

第2日の10日（日）には臨床部門として「前立腺がん検診・監視療法アップデート」をテーマに、公募演題、教育セミナー2、パネルディスカッションを実施した。

パネルディスカッション「ネットベネフィット改善を目指した前立腺がん検診システムと監視療法」は、我が国のオピニオンリーダーである5人のパネリストによる講演と活発な討論を行い、2日間のシンポジウムを終えた。

2日間にわたって開催された今回のシンポジウムには、延べ260名の方々にご参加いただき、全国の泌尿器科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医および基礎研究者を中心に、前立腺がんの「基礎部門」、「臨床部門」それぞれの研究に携わっておられる医師・研究者による活発な討論を通じて、最新の知識がアップデートされたことは、我が国の前立腺がん診療の向上に繋がると期待でき、極めて意義深いシンポジウムとなった。

2. 研究助成（公募）

2023年度は、研究助成選考委員会を12月10日に実施し以下の4名が受賞した。
（助成金額は100万円/1名）

＜応募件数（受賞件数）＞
・基礎的研究課題：13課題（3課題）
・臨床的・疫学的研究課題：5課題(1課題)

【受賞者4名】

＜基礎3名＞

・ 楊井 祥典
　所　属 ： 慶應義塾大学　医学部　泌尿器科学教室
　課題名 ： アンドロゲン制御に伴う前立腺癌微小免疫環境の変容の掌握と新規治療戦略

・ 田口　慧 先生
　所　属 ： 東京大学大学院医学系研究科　泌尿器外科学
　課題名 ： HSV-1ベクターを用いた慢性前立腺炎に対する除痛ウイルス療法の開発

・ 山田 康隆 先生
　所　属 ： 千葉大学大学院医学研究院　泌尿器科学
　課題名 ： PSMA標的治療不応腫瘍に対する新規治療戦略の開発

＜臨床･疫学1名＞

・ 山道　岳 先生
　所　属 ： 大阪大学大学院医学研究科　器官制御外科学　泌尿器科学
　課題名 ： 去勢抵抗性前立腺癌患者の骨転移診療における血中GDPP測定の臨床実装

3. 人間ドック施設における前立腺がん検診実施状況調査 第19回（自主事業）

公益社団法人日本人間ドック学会の協力のもと、平成 17 年度より継続実施している「人間ドック施設における前立腺がん検診実施状況調査」は、前回(18 回)の調査と同様に、前立腺がん検診実施状況の更なる詳細を把握する目的をもって、556 施設(前回比 177%)にアンケート調査票を配布したところ、208 施設（前回比 170%）より回答を得た。（回答率　37.4%）

4. 情報提供（自主事業）

「がん医療情報」を求める患者・家族の情報源は Web サイトである。当財団は、多くのがん啓発団体と連携し、Web サイトで、がん医療に関わる映像やセミナーの予定などを配信するキャンサーチャンネルに加盟し、Web にて科学的根拠に基づく「がん医療情報」を提供した。

2023 年度は 2 名予定にて 1 名実施（日程延期にて 4 月の実施）

・ 柑本 康夫 先生
　所　属 ： 和歌山県立医科大学　泌尿器科　准教授
　テーマ ： 前立腺癌診療ガイドライン 2023 年版：改訂のポイント

5. 学術図書等の刊行（自主事業）

前立腺がんの正しい知識の啓発として、保健行政担当者向けに、前立腺がん検診に関するトピックス等を特集した「前立腺がん検診学術ニュース」を刊行。

住民検診実施時に市民から寄せられる問い合わせ等に活用するとともに財団ホームページ上に内容の要約を開示し広く社会一般に公表した。

2023 年度は、「前立腺がん検診学術ニュース第 17 号」を刊行した。

全国の自治体(1,741 ヵ所)および関係機関(164 ヵ所)、都道府県医師会長 (47 ヵ所) 宛て複数部送付した。

6. パンフレット等の印刷（自主事業）

一般市民向けに、前立腺がん検診についての最新情報をわかりやすく解説した「PSA 検診受診の手引き」のパンフレットは在庫に余裕がり印刷はしていない。

パンフレット要望の 2023 年度の依頼件数は 23 件（1,034 部）であった。

7. 前立腺微小がん発症と臨床がんへの進展の 1 次予防（化学予防）についてのコホート研究（自主事業）

主任研究者 ： 黒沢病院　院長　伊藤一人

食生活習慣因子と前立腺がんの発症リスクの関係を検証することを主目的とし、２つの前向きコホート研究から構成される。研究概要は令和 5 年度事業計画の通りであるが、研究 1、研究 2 ともに、20 歳代前半の食習慣とベースライン検診時の問診データの電子化が完了している。

今後、継続検診受診時の PSA データと観察期間中の検診結果の電子化作業を進め、凍

結保存血清を用いて、ベースライン検診受診時のイソフラボン濃度の測定と、最終検診受診時の前立腺がん罹患予測因子である遊離型 PSA/総 PSA 比（％ｆ-ＰＳＡ）の測定を行い、がん発症と 20 歳代前半、健診受診時の食環境・イソフラボン濃度との関連性の解析を進める。今年度中に電子データの整備を行い、来年度に前述の測定とデータ解析を進める予定である。学術雑誌への公開を含めた研究終了時期は、2025 年度末になる見込みである。

8. 前立腺がん死に対するＰＳＡ検診の効果検証（自主事業）

主任研究者 ： 黒沢病院　院長　伊藤一人

症例対照研究・時系列/地域相関研究への後ろ向き研究である本事業は、群馬県内の市町村前立腺がん検診データと、地域がん登録データの膨大な統合作業が順調に進んでいる。本年度中に統合が完了し、その後の研究用データベースの整備を行い、令和 5 年度事業計画書に示している重要な解析を含め、プロトコールに記載のある研究解析、来年度より研究成果を学術集会、学会医学専門誌に公表する予定である。学術雑誌への公開を含めた研究終了時期は、2025 年度末になる見込みである。

9. キャンペーン（後援事業）

前立腺がんの正しい知識を国民にわかりやすく伝えることを目的とした「ブルークローバー・キャンペーン」に対し、後援名義の使用承認を行った。

第 38 回前立腺シンポジウムにて、「ブルークローバー・キャンペーン」の活動動画の配信を行った。

※ブルークローバー・キャンペーン
NPO 法人前立腺がん啓発推進実行委員会：代表者 深貝隆志（昭和大学 泌尿器科 教授）

以上